

社会人のための情報システム誌
— 経営近代化のシステム研究 —

Computer Report 4

2014 No.715

3 はじめの言葉

4 情報戦まっただ中

容赦ない周辺国家からの脅威(2)

田原文夫

周辺国家の言動が、あまりにもおかしい。先の大戦後、70年を経過した今現在に至るも、日本の戦前政策を持ち出す言動を繰り返している。しかも国家間交渉で決着がついている賠償問題の蒸し返しをも試みている。まさに国家を代表している政府かどうかを疑わざるを得ない状況だ。日本国民も、最早戦後生まれがほとんどであるように、周辺国家でも同じように戦後世代がほとんどである。賠償問題など持ち出せる世代ではないはずである。日本の先人が残した歴史事実を認めないわけだはないが、過去の歴史認識よりも、今現在の戦後世代が行った行為ではないことを周辺国家は正しく認識すべきである。過去の歴史認識を言うよりも、現在の歴史事実として、自分たちがどういう言動をしているかを認識して欲しい。これを、日本および日本人は主張していかなくてはならない。ウソでも百編言えば事実であるかの言動に惑わされてはならない。戦後世代同士が互いに過去の事象をベースに中傷し合っても不毛である。今現在にあって、なお継続している他民族国家の不当占領行為を直ちに停止すよう、日本は周辺国家に求めていくべきだ。そうした周辺国家に対して、貴重な情報漏えいをしてきた事実を大いに反省したい。

1 1 情報社会を考える その43

情報社会作りに、どう関与し、どう貢献していくか

編集部

始まったビットコインへの圧力

ひとつの取引所の経営上の行き詰まりから、ビットコインシステム潰しの圧力が始まっている。本誌では、世界的規模でのインターネット決済システムとして、ひとつのビジネスプロセス変革の動きとしてビットコインシステムに注目してきたが、様々な方面から圧力を受け始めたようだ。

日本政府は、決済システムのひとつとしてではなく、ビットコインを物品として認識し、その取引に消費税をかけるというやり方でせまることとしたようだ。結果として、既存の決済システムを擁護する動きを表明した格好だ。

いかにビットコインシステムの持つ新しいタイプの決済システム機能が気に入らないとしても、何ともすごい理屈を捻出したものである。国家安康の文字がある豊国神社の梵鐘に対して徳川家康が突き付けたとする難癖を彷彿させるものがある。天海和尚に勝るとも劣らない知恵者が日本政府の当局にはいるようだ。

1 3 日本再生／世界競争力回復のカギ

何故 M-B I M構築が必要か その 38 水田 浩

オープンガバメント OG 4 工業化社会をデジタル化する

社会全体が工業社会から情報社会に移る第一段階ではICT（情報通信技術）が個々の組織の効率化のために、それぞれが独立して導入され、第二段階では工業社会の組織はそのままにして組織間をICTで統合してゆく。社会全体を情報社会に変える準備段階である。第一段階での最初のデジタル化運動が 1994 年から世界規模で行われたCALS運動であった。そして次に行われたのが電子政府運動であった。

1 9 連載 アーキテクチャ論 (36)

ArchiMate2.0 のビューポイント 山本修一郎

国立大学法人 名古屋大学 情報連携統括本部 情報戦略室 教授

本稿では、オープングループのアーキテクチャ記述言語である Archimate[1][2]（アーキメイト）におけるビューポイント(視点)について紹介する。

■ビューポイントの位置づけ

ArchiMate では、下表に示す 6 個のビューポイントが定義されている。視点は、目的視点と内容視点の 2 つ分類されている。

目的視点には、設計視点（Designing）、判断視点（Desiding）、情報視点（Informing）がある。

設計視点をを用いて、設計過程で詳細化を支援することができる。

判断視点をを用いて、分野横断的なアーキテクチャ関係分析を提供し判断を支援することができる。

情報視点をを用いて、アーキテクチャを理解し、責任を義務付け、確認を支援することができる。

2 8 IT 新時代とパラダイム・シフト

第 5 4 回 ガラパゴス化していた

邦銀 ATM のサービス改革始まる 根本忠明

東南アジアを含め海外の ATM は、外国人持参のクレジットカードによる現地通貨の入手ができるのに、我が国の銀行 ATM の多くはそうっていない。このため、外国人観光客から長年の間不評を買ってきた。それが 2020 年東京五輪の開催決定を契機に、諸外国並みに改善される見込みになってきた。それだけでなく、APN への加盟が実現し、アジア・オセアニア地区での ATM 国際接続サービスが、期待されている。

3 0 続インテリジェンスへのいざない 51

情報管理を論じるための

共通思考基盤の認識と確立 今井 武

漠とした情報管理論が行き交っている。秘密情報保護法の議論にしても例外ではない。国家および国家公務員が関わる情報だけに目が向けられている。国民の共通のコンセンサ

ス、共通認識基盤がないことが議論を錯綜させているように思える。

3 4 一味違うウェブ検索

第四十二話 情報発信のための「宝の山」の探し方

ぐうのうえぶへい

情報発信のプロを目指す人は、他人とは一味違う情報発信を目指すべきである。この人たちの為に、情報発信のための「宝の山の見つけ方」を提示したい。今回は、報告されていない情報、未確認の情報のチェックについて紹介する。

3 6 しすてむこらむ

IBM 世界に問題解決のプロを派遣

メゾフォルテ

IBM（米国ニューヨーク州アーモンク）は今年、都市や地域が抱える水質汚染や食の安全、経済成長、雇用促進、輸送の効率化、市民の安全といった様々な課題に立ち向かう、世界中の16以上の都市や地域を支援していくことを明らかにした。

その一環として、このほど2014年度のSmarter Cities Challenge（スマーターシティチャレンジ）プログラムの支援対象となる具体的な自治体名を発表した。

この社会貢献プログラムは、世界各地の対象である都市や地域にIBMの優秀な専門家チームを派遣することで、各自治体が今日直面している最も深刻な課題に対処する専門知識を提供するというもの。

3 9 連載 四字熟語カトレーニング

すぎやまちヒロ

☆☆

オンデマンド出版のご案内

本誌連載中の山本修一郎氏「アーキテクチャ論」が、オンデマンド出版されております。ご活用下さい。

詳しくは、WebCR ホームページをご覧ください。

「アーキテクチャ論」

山本修一郎 著

国立大学法人 名古屋大学 情報連携統括本部 情報戦略室 教授

☆☆

セミナー／講演会の講師紹介

ユーザー会/各種研究会/勉強会における
セミナー/講演会での講師をご紹介します。

クラウドサービス導入前のチェックポイント

クラウドサービスは果たしてTCO削減に寄与するか

レガシーマイグレーションの進め方と留意点

これからの企業情報システム構築のポイント

これからの金融情報システムの課題

役に立つ情報管理の実践と課題

情報セキュリティ監査の受け方／臨み方

リポジトリベースのシステム資源管理

その他 クラウドサービス導入にお悩みの方

など 各種コンサルティングも承ります

ご質問／何でも相談は下記まで
株式会社 日本経営科学研究所
ComputerReport編集部

cr-info@jmsi.co.jp

CR 選書のご案内

CR選書

改訂版
データ・ウェアハウス

定価 本体 2,816円+税 送料(〒300)
A5版 289頁

石井 義興 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 目録が必要としているデータ	第七章 情報システム部門しかできないデータ・ウェアハウスのサポート
第二章 データベースとデータ・ウェアハウスの相違点	第八章 データ・ウェアハウスの構築とデータ移行ツール
第三章 OLAP用のデータ・ウェアハウス	第九章 データ・ウェアハウスの利用とエンドユーザーツール
第四章 リレーショナル・モデルとネストド・リレーショナル・モデル	第十章 データ・ウェアハウスの保守とオートメーション
第五章 正規化の問題点とデータ・ウェアハウス	
第六章 データ・ウェアハウス管理システム	付録

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

実践データ・ウェアハウス OLAP

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300)
A5版 249頁

豊島一政・木村 哲 共著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 これまでのEUCIでできなかったこと	第七章 多次元データベースを作る
第二章 OLAPの定義	第八章 多次元データベースの構造
第三章 Code博士によるOLAPプログラムの評価ツール	第九章 多次元データベースとアプリケーション
第四章 分析処理の歴史	第十章 OLAP/サーバーとフロントエンド
第五章 OLAP(多次元データベース)の形	第十一章 OLAPアプリケーションパッケージ
第六章 データウェアハウスとOLAP	付録

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

消費者行動論

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300)
A4版 181頁

田原文夫 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 消費者行動論	第四章 消費者意志決定
第二章 消費者行動と心理的決定要素	第五章 消費者行動トピックス
第三章 消費者行動と社会的決定要素	第六章 人間であること(人間行動トピックス)

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

aism 研究活動報告
インターネットセキュリティの落とし穴

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300)
A4版 197頁

一橋大学教授 安田 聖 監修
aism情報セキュリティ・マシントリプル研究会 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 落とし穴を回避するための基礎テクノロジー	第十一章 WORM、KLEZの監視と駆除記
第二章 aism情報セキュリティマシントリプル研究会の発足	第十二章 メールが通らない
第三章 認知される電子署名方式の基本原則	第十三章 生体ネット運用のための情報オーナーの建設
第四章 世界を駆けめぐったCodeRedワーム	第十四章 最近のインターネット防衛戦線心得
第五章 情報システムにおけるリスク	第十五章 ITガバナンスの意識と情報セキュリティ対策
第六章 情報漏洩対策	第十六章 情報セキュリティ対策とセキュリティ教育
第七章 VPN(バーチャルプライベートネットワーク)	第十七章 ケーススタディ「情報セキュリティ教育」
第八章 aismの2014年度の事業計画	第十八章 セキュリティポリシー作成にあたってのノウハウ
第九章 情報セキュリティ情報研究会の発足と課題	
第十章 インターネット関連の苦情と不正アクセス	

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

エンタープライズ情報システム設計の基本書！
トップ主導の情報システム革新

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300)
A4版 271頁

高田 顯重 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 情報システム利用環境の変遷と今日的課題	第五章 情報システム監査
第二章 経営活動と情報システム	第六章 情報システム部門の体制革新
第三章 経営情報システム革新の方向	第七章 情報システムの成果評価
第四章 トップ主導の情報システム開発	第八章 変化対応のシステム作り

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

計量モデルの構造と解法
—オーダーリングとスパース—

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300)
A4版 213頁

安田 聖 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一部 計量モデル	第二部 大規模モデルの効率的解法
第一章 計量モデルと計量モデルの解法と歴史	第五章 計量モデルの分解方法
第二章 線形計量モデルの解法	第六章 方型式のオーダーリング
第三章 非線形計量モデルの解法	第七章 大規模モデルの解法
第四章 反復法の問題点	第八章 スパース
付録・電子計算機の高速化と計量方法	

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

『いざ！というときの得広報』
すぐに役立つ実践117カ条

定価 本体 1,748円+税 送料(〒300)
A5版 228頁

加藤 洋一 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

■ 広報ビジネスの前提条件	■ 売定文も企業体質
■ ニュースリリースは東方向選定	■ 守るも攻めるも広報が窓口
■ 活字媒体の特性をチェックする	■ あなたならどう対応する「事例編」
■ 記事の材料(ネタ)と発表のテクニック	<付> 記事とうまく付き合うための鉄則(まとめ)

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

ザ・ワールドリンク
がんばれ、国際グローバルサーバー—
IBM社に挑んだ国際情報システム作りの物語

定価 本体 1,848円+税 送料(〒300)
A5版 268頁

迫 忠幸・湯浅 誠 共著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 発端	第十一章 日本開港手続の違い
第二章 あるプロジェクト	第十二章 米商チーム崩壊の危機
第三章 新しいシステムへの働き	第十三章 新たなチーム
第四章 WOOIに向けて	第十四章 米商事務所移転と新たな組み
第五章 FJO、IBM競争	第十五章 開港手続とハンタツ
第六章 日本プロジェクトチームの発足	第十六章 ユーザー教育
第七章 プロジェクト開始	第十七章 日本運用体制と本番後日誌
第八章 米商チーム立ち上りの流れ	第十八章 既存システムとのデータ交換の問題
第九章 大きな壁、英語コミュニケーション	第十九章 稼働時の一 直前、稼働、直後の苦しみ
第十章 米商チーム、異なる三人組	第二十章 稼働時の二 安定期間と北米センター移設

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp